

評議会だより

第四九六回評議会

平成九年一月二十一日(火)

☆(教員選考報告)

総合科学部

教授 深宮 齊彦(自然環境研究)

文学部

教授 植木 研介(英文学)

理学部

助教授 青木百合子(高分子化学)

医学部附属病院

教授 石川 澄(医療情報部)

講師 竹末 芳生(第一外科)

講師 山野上敬夫(集中治療部)

☆(部局長候補者の選考報告)

理学部部長 牟田 泰三(再任)

☆(報告)

一、広島大学長予定者選挙管理委員会の決定事項等について報告があった。

二、学長候補者となるべき者の推薦状況について報告があった。

なお、学長候補者となるべき者は、二月三日(月)十七時に確定するため、確定後、名簿を送付する旨報告があった。

三、大学院教育研究に関する全学的整備の基本方針について報告があった。

四、財団法人広島大学後援会の設立準備状況について報告があった。

五、第九次教官定員の削減計画について報告があった。

六、平成九年度新規概算要求事項内示概要について報告があった。

七、平成九年度大学入試センター試験の実施について報告及び謝辞があった。

八、学生ボランティアについて報告があった。

☆(議事)

一、各種委員会の見直しについて

各部局で検討の上、次回の定例評議会に諮ることとした。

二、広島大学副学長に関する規程及び広島大学副学長に関する申合せの制定について

各部局で検討の上、次回の定例評議会に諮ることとした。

三、広島大学学生交流規程の改正について
原案のとおり承認し、本日付けで改正することとした。

四、外国人教員の任期について
原案のとおり承認した。

五、広島大学とドイツ連邦共和国チュービンゲン大学との間の学術交流に関する協定の改正について
原案のとおり改正することを承認した。

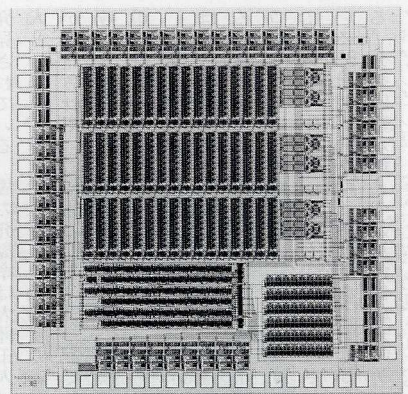
世界で初めて

デジタルとアナログを融合

― 将来はより人間的な電算機が期待

工学部の岩田穆(いわた・あつし)教授と永田真(ながた・まこと)助手が、コンピュータの基本回路にアナログとデジタルの情報処理を融合させることに世界で初めて成功した。

デジタルは速く正確に情報を伝達することができ、アナログはあいまいな情報の処理に効果を発揮するとされており、岩田教授らは、情報を0と1の組み合わせで伝えるデジタル式のパルス(振動信号)に波の形や幅で伝えるアナログ情報を融合させるよう工夫したマイクロチップ(シリコン、三・



試作したマイクロチップの拡大写真

七五ミクロ)を試作した。

研究成果は二月六日から三日間、米サンフランシスコのマリオットホテルで開催された国際固体回路会議(ISSCC)で発表された。発表の骨子はアナログ情報をパルスの幅で表現し、現在のデジタル計算機では不得意な多数の情報の同時処理を少数のトランジスタと極低エネルギーで実現する新しい回路を開発したことで、今後、文字、図形、顔などのパターン認識、ロボットの視覚などへの応用が期待される。

今回の成果について岩田教授は、「イメージセンサーやメモリなどを含めたシステムを集積した大規模なチップを実現して、将来の高度情報化社会に役立つ技術とした」と話している。

原田学長再選

去る二月十八日広島大学長予定者選挙が行われ、原田康夫現学長が一回目の投票で有効投票数(一四二六票)の六六%以上を獲得した。これを受けて評議会は二月十九日、次期学長予定者として現学長を再選することを決定した。

この日午後四時三十分からは報道機関八

社が出席して、本部四階4F会議室で次期学長予定者の記者会見が行われた。

席上原田学長は、次期への抱負として、まず第一に全学体制での教養教育の重視を、次に学部教育の充実の上に立った大学院の積極的な整備を、第三点として老朽化が目立つ霞キャンパスの再開発を、最後にパーク・ユニバーシティへの整備の四点を掲げた。教育改革という意識改革をやり遂げることに、次世紀には日本を代表する大学に食い込んでいきたいという原田学長の夢は、大学構成員の協力の如何に掛かっている。

市民と学生との架け橋

― 学園都市づくり交流会議

市民と学生との交流はいかにあるべきか。学園都市づくり交流会議(事務局・東広島市役所企画課)では、学生の声を活かした事業展開を行うに当たり、二月五日(水)午後五時から、大学会館で「地域と大学の交流を語る会」を開催した。

当日は学生から、「東広島島のまちづくりについて、学生としてできることは何かを考えていきたい」といった意見が寄せられた。学生の側からも「まちづくり」について能動的な意見が聞かれるようになったことは頼もしいばかりといえる。

また、市民との交流を図るための催しやイベントについては、「四月は大学に慣れるので精一杯」「サークル活動を、市民と協力することでより一層の盛り上げをはかりたい」などいろいろな意見が出された。今後ともこういう交流の機会をできるだけ設けていくことにより、学生の声を活かしたすばらしい学園都市ができるのではないだろうか。